

離床センサー 現場レポート！

VOL. 31
Dec.2011

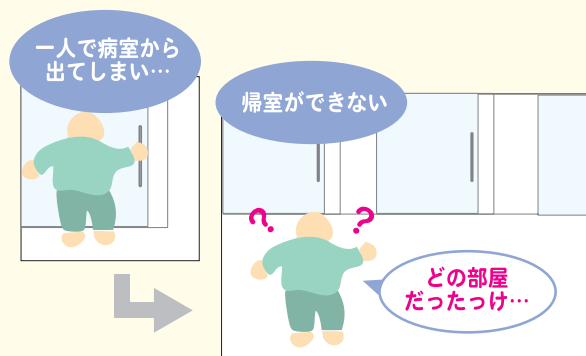
「離床センサーをお使いの現場から、様々な工夫をご紹介します！」

タッチコールを使い病室から出ようとすることを報知させ、患者の徘徊、帰室困難を防止している岡山県 S 病院様の例をご紹介します！

岡山県・S 病院様 ご使用機種：タッチコール・コードレス (TC-R)

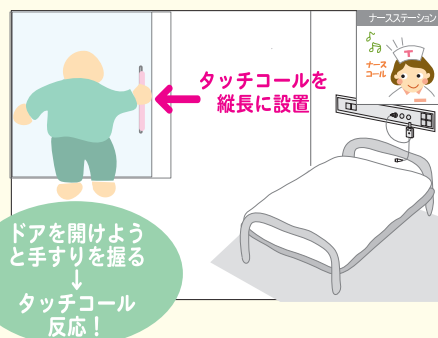
課題

認知症で帰室困難な患者がいる。また、徘徊することもあり一人歩きが心配である。居室内での動きは問題がないので、ベッド回りにセンサーは設置したくない。出入口に床敷きタイプのセンサーを設置したが、センサーに気づき避けられてしまった。



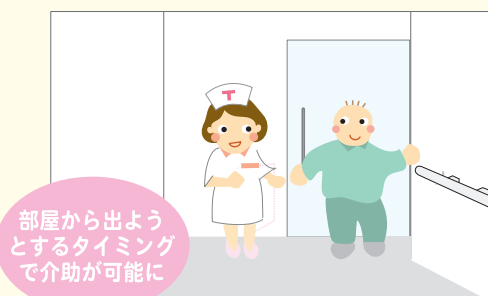
対策

タッチコールを病室ドアの手すりに設置。ドアを開けようとするときに自然にセンサーを握り、報知ができるようにした。



効果

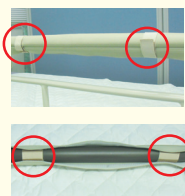
部屋から出ようとしているタイミングで歩行介助ができるようになり、徘徊や帰室できないといったことも防ぐことができた。



『タッチコール』ちょっとポイント！

ポイント1

ベッド柵などに取り付ける『タッチコール』ですが、柵の太さにより、マジックテープで締められないことがあります。そんな時は、出荷時に添付されている「タッチバンド」をご使用ください。



ポイント2

タッチセンサーは折り曲げず、まっすぐ設置して下さい。折り曲げた場合内部電極が破損し、修理不能になることがあります。

